

平成30年度 伊勢地域公共交通会議 第2回 議事要旨

■ 開催概要

日時：平成30年6月18日（月）14:00～

場所：伊勢商工会議所 4階 中ホール

出席者：全19名

学識経験者

2名（名古屋大学大学院環境学研究科教授
・近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科准教授）

市民代表 4名

一般乗合旅客自動車運送事業者

1名（三重交通株式会社バス営業部部長（乗合））

一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車運転者が組織する団体

1名（三交伊勢志摩交通労働組合 執行委員長代理）

鉄道事業者

2名（東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業本部
・近畿日本鉄道株式会社 宇治山田駅長）

中部運輸局三重運輸支局

1名（首席運輸企画専門官）

三重県伊勢警察署

1名（交通官）

三重県

1名（地域連携部交通政策課長）

伊勢市

5名（市長・産業観光部理事・健康福祉部長
・教育委員会事務部長・都市整備部長）

事務局

5名（伊勢市都市整備部交通政策課）

■ 議事内容

■ 平成29年度 事業報告について

■ 平成29年度 事業収支決算について

平成29年度 事業報告及び平成29年度 事業収支決算は相互に関連するため一括審議とし、事務局より資料を用いて説明。

提案事項に関しては、原案どおり承認をいただいた。

■ 生活交通確保維持改善計画の平成31年度認定申請について

事務局より、生活交通確保維持改善計画の平成31年度認定申請について、資料を用いて説明。

生活交通確保維持改善計画の「地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性」について、まず、伊勢地域公共交通網計画策定の経緯、伊勢市における伊勢地域公共交通網計画の位置付けを記載し、そのあとに伊勢地域公共交通網計画におけるおかげバス、沼木バスの役割や位置付けを記載してはどうか。(学識経験者)

⇒ご指摘いただいたとおり修正し、申請したい。(事務局)

提案事項に関しては、今回委員から出された指摘をもとに修正した上で申請することで承認いただいた。なお、修正後の内容については事務局に一任いただいた。

■ おかげバス・おかげバスデマンドのバス停位置及び名称の変更について

事務局より、おかげバス・おかげバスデマンドのバス停位置及び名称の変更について、資料を用いて説明。

提案事項に関しては、原案どおり承認をいただいた。

○その他

■ 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価の結果について

事務局より、地域公共交通確保維持改善事業の二次評価の結果について、資料を用いて説明。

地域公共交通確保維持改善事業において、伊勢市については、おかげバスと沼木バスに補助金が出されているが、その理由として、おかげバス、沼木バスが地域間幹線に結びついているからである。その地域間幹線は多くの補助額を受けているが、仮に補助対象となる輸送量の基準を下回り、補助が受けられなくなると、路線を維持することが難しくなり、路線が廃止となる可能性がある。地域間幹線が廃止となると、連鎖的にバス路線が廃止となる危険がある。フィーダーから幹線に乗り換える、幹線からフィーダーに乗り換える人が少なくならないよう努力してほしい。また、伊勢市として乗客がどれくらい必要かを考えなければならない。三重交通には適時、地域間幹線の維持が難しいかどうか警告を出してもらいたい。(学識経験者)

⇒コミュニティバスだけではなく、地域間幹線も含めて、問題意識を持っている。公共交通の再編調査等では路線バスエリアも含めて検討して行きたい。(事務局)

⇒非常に危険な位置づけにある路線がいくつかあるので、その点については、一緒に考えさせていただきたい。関係する市町が多くあり、広域にわたる路線を運営しているのでその点も踏まえ、一緒に取り組ませていただきたい。(一般乗合旅客自動車運送事業者)

⇒この制度自体が昭和からあり、制度自体の存続が危機的である。制度の見直しの話が度々あり、補助対象となる路線の基準の厳格化などが言われている。理由として利用者の減少、補助金の増加があり、地域で努力していないのではないかといいことを言われている。市町が利用者を増やすような取り組みの努力をしていって欲しい。(学識経験者)

■ 伊勢市公共交通網形成計画に定める指標の推移について

事務局より、伊勢市公共交通網形成計画に定める指標の推移について、資料を用いて説明。

■ おかげバス運行 10 周年記念キャンペーンの結果について

事務局より、おかげバス運行10周年記念キャンペーンの結果について、資料を用いて説明。

おかげバスでは導入していないICカードよりも身近に買物に使える商品券が人気である。
(市民代表)

⇒他の市町ではICカードエミカを導入している市バスもある。おかげバスでもぜひ導入を検討いただければ。(一般乗合旅客自動車運送事業者)

■ その他

おかげバスデマンドに関して、デマンド運行に変わったことで利便性が高まり、利用者数が増加すると予想されたと思う。現状、利用者数が減少しておりが見過ごせない状況ではないか。何か減少した理由はあるのか。(学識経験者)

⇒減少している明確な答えは事務局でも持ち合わせていない。天候による変動、日常的にデマンドタクシーを使われる顧客が減っているといったことが考えられる。今後実施していくアンケート調査で何らかの理由を突き止めたいと考えている。(事務局)

福祉有償運送の利便性が高いと思う方が多く、そちらに乗客を取られたため、デマンドバス利用者数が減少したのではないかと思ったのだがどうなのか。(学識経験者)

⇒おそらくだが、福祉有償運送を使用する方とデマンドバスを利用する方は異なると思われる。伊勢市の福祉有償運送の利用者はストレッチャーや車椅子が無ければ移動できない方に限定されるのではないかと思う。こちらも調査をしなければわからないが、現状で福祉有償運送と競合しているとは考えていない。(事務局)

免許証返納について、伊勢市においては平成30年3月末時点で131人の自主返納者があった。
(三重県伊勢警察署)

おかげバス試乗会の感想及び改善点について、

- ・高齢の方の利用者が多く、杖を利用される方も多かった。
- ・杖を使う利用者が降車される際、段差があり、怖いと感じる。
- ・高齢の利用者が立ったままバスに乗るのは難しいと感じた。
- ・バスのルート上には狭い道やスーパーの駐車場内を運行しており、バスの大きさとして現状で限界だと感じた。
- ・費用対効果を得るためには、1つの便で乗客の入れ替わりが多くなければならない。
- ・利用者が高齢であることから、自分たちで気づかないような点が不便になっている。利用者の方への気遣いが必要だと感じた。
- ・団地の端にあるようなバス停には、そもそもバス停まで行くのが難しい。誰にとっても便利にするには不可能に近いが、何かやり方を考えていく必要がある。
- ・おかげバスの観光客利用も考えてはどうか、そのためにはICカードの対応などを合わせて考えていくことが大事。
- ・路線バスが運行している地域でも公共交通機関を不便と思っている人達はたくさんいる。また、路線バスとおかげバスでは金額（運賃）の違いが大きい。一市民の金銭的な負担も含めてバランスよく考えないと、おかげバスの認知、市民の認知は得られないと感じた。
- ・わかりやすいバス停の名前、また、ネーミングライツはできないか。（市民代表）

学識経験者から地域公共交通に関する講話を実施